

## 外国語としてのロシア語検定試験(初級レベル)の概要と問題点

トルストグーゾフ, アレキサンダー

キーワード: ロシア語テストニング, スタンダード, ТРКИ の初級レベル

### 0. はじめに

ロシア連邦教育科学省認定「外国語としてのロシア語検定試験 (Тестирование по русскому языку как иностранному: ТРКИ)」は、既に 15 年間実施されている。通常、テストというものはある理念(策定の動機)に基づいて、ある目的のために、さらに具体的な状況に見合った形で作成される。したがって、テストの利点と欠点、有効性は、テストの目的がどの程度達成されたかで判断する必要がある。

1999 年には「ヨーロッパ言語テスト専門家協議会 (Association of Language Testers in Europe: ALTE<sup>1</sup>)」に於いて他のヨーロッパ諸語と並んでロシア語に関する公的基準(小林 潔 2007: 96)として発表された『Типовые тесты по русскому языку как иностранному. Элементарный уровень. Общее владение.』の「Preface」によると、「In their definition of stages of language proficiency the authors based the classification on the requirements as stated in the Russian Federation State Educational Standard for Speakers of Russian as a Foreign Language. ... It's a standardized test which determines whether the student has achieved the elementary level of competency in Russian as a foreign language (ТЭУ)」(Андрюшина Н.П. и др. 1999: 6 - 7)。

6 レベルからなる ТРКИ の初級レベルの根拠として主張されるのは、同じ 1999 年に先立って発表された『Государственный образовательный стандарт по русскому языку как иностранному. Элементарный уровень. Проект.』である。すなわち、現代のグローバル化の進展に伴って、外国人向けのロシア語学力向上政策は、スタンダードに基づく教育改革の形を持っている。なぜなら、教育・学習・評価を一貫性のあるものとして扱うことができるからである。スタンダードが世界中でロシア語を学ぶ学習者にとっては、ロシア語能力を測定する尺度、また得点の解釈を容易にするツールとして活用することが可能になる。スタンダードによる規範化の対象になるのはシラバス、教材、教授法、能力評価基準などである。スタンダードを教育実施の中核に取り込むのは、評価・テストニング

---

<sup>1</sup> ALTE は 1990 年に設立されたヨーロッパ統一の評価基準作成と試験実施を行う専門家集団である。

の活性化を推進するために重要である。スタンダードの能力評価基準によって作成された ТРКИ は、ある種のスタンダードとしての機能を果たして、標準テストとなっている。

現在の言語教育の世界で規準（テストスタンダード）を定めることが当然となっている。アメリカの ACTFL の Standards for Foreign Language Learning in the 21<sup>st</sup> Century (1996) や欧州評議会の Common European Framework of Reference for Languages: CEFR (2001) や『日本語教育スタンダード』（2010）などが相次いで刊行されている。言語教育におけるスタンダードとは何かについてまだ共通理解があるわけではない。平高史也の定義を借りると「当該言語の教育や普及に関する一定の目的や理念とともに、その言語の教育の環境をデザインするのに必要なある種の枠組みないしは目安を提供するものである。... すなわち、ある言語の教育や普及の目的や理念から、それを支える言語観や言語教育観を導き、さらに、その言語観や言語教育観を基盤として、学習者が身につけるべき知識や能力を記述するといった具合である」（平高史也 2006: 6-7）。本稿では、以上の観点から ТРКИ の初級レベルの概要と問題点の検討を通じて、このテストで言語能力がいかにかに測定できるか検証する。

## 1. ТРКИ 初級レベルの概要

言語政策としての、標準テストである ТРКИ は以下のような動機で策定されている：「One of the most topical issues in the theory and practice of teaching Russian as a foreign language concerns describing different stages of language mastery and creation of tests specifically designed to measure Russian language proficiency」（Андрюшина Н.П. и др. 1999: 6）。

つまり、ロシア語の教育専門家は、

- ・外国語としてのロシア語教育における言語到達度のレベルの策定
  - ・ロシア語到達度を測るための専門的なテストの作成
- という課題に面している。

ТРКИ の目的は以下のようなものである：「Independent and objective control provided by a unified testing system will allow to measure Russian language proficiency regardless of where, when and for how long the student studied Russian, and will allow for correlation of language proficiency in Russian with other foreign languages as well as promote recognition of international language proficiency certificates. A universal system of testing will also foster unification of Russian language teaching methods in Russia and abroad」（Андрюшина Н.П. и др. 1999: 6）。

すなわち、統一したテスト制度による独立で、客観的なコントロールは

- ・教育や学習条件に関係なくロシア語到達度を測定すること
- ・ロシア語到達度の他外国語との相関性

- ・国際間で言語能力資格証の相互認定

を可能にして

- ・ロシアと外国でのロシア語教育方法論の統一を促す。

テストの妥当性を高めるために言語能力を構成する概念を検討することは重要なことである。ТРКИ の言語観および教育観は以下のである：「Each level is characterized by certain skills and practical communicative objectives in different areas of activity. The standard takes into consideration the communicative situation and factors, affecting it, personally oriented communicative objectives and their achievement via different communicative strategies and tactics in major types of communicative events, types of discourse and corresponding grammatical systems and vocabularies」(Андрюшина Н.П. и др. 1999: 6)。

言語の定義によってスタンダードの範囲は大きく変わる。もちろん、スタンダードは複数の観点を併せ持つこともありうる。ТРКИ はコミュニケーション能力だけではなく、文法能力や語彙能力をテストする。ところが、そのため、テストは内部統一性を欠いている。

コミュニケーション言語能力を測定する場合は、テストの構造と内容、採点基準・パラメータは「コミュニケーション能力」という概念の解釈によって異なってくるが、コミュニケーション能力がどのような要素で構成されているかについては、研究者間で意見が異なるのである。コミュニケーション能力の構成要素について簡単に触れたい。

1. **言語構造能力** (языковая, лингвистическая компетенция) は音声・文法・語彙の知識をもとにして文の構成を理解し、文を組み立てる能力である。この能力は、まず「語彙・文法力」のテストで、また「口頭発表力」と「作文力」のテストでも測定される。言語構造能力のレベルが低い場合は、「聴解力」と「読解力」のテストにもマイナスの影響が出る。

2. **談話的能力** (дискурсивная компетенция) は個々の文を様々な構文的、語彙的手段を使って、整合性のある発話に作り上げる能力である。この能力は言語のアクティブな能力を測定する場合に、テストの重要な対象となる。

3. **語用能力** (речевая компетенция) は発話やテキストをコミュニケーションの目的や状況に適応させる能力である。この能力は「口頭発表力」や「作文力」、「聴解力」のテストで測られる。

4. **社会言語学的能力** (социолингвистическая компетенция) は場面に応じて適切な言語形式を運用する能力である。この能力は 3 と同様に「口頭発表力」、「作文力」、「聴解力」のテストで測定される。この能力が不十分な場合、テストでは公的な場面設定で俗語を使用するといった誤りがよく起こる。

5. **方略的能力** (стратегическая компетенция) は、コミュニケーション活動の際に、

言語知識や運用力，社会背景知識の不足などを補う能力である．たとえば，コミュニケーション上の問題に上手く対処するために別の表現手段を選ぶといった戦略がとられるが，テストではこの能力は非常に高く評価される．

さて，1999 年に出版された『Государственный образовательный стандарт по русскому языку как иностранному. Элементарный уровень. Проект』（以下，99 年版）の後に，2001 年に『Государственный стандарт по русскому языку как иностранному. Элементарный уровень. Проект. Издание второе, дополненное и расширенное』（以下，01 年版）が出版されている．

99 年版と 01 年版では，初級レベルで要求されるコミュニケーション活動領域，テーマの簡単な記載に続いて，必要とされる技能（聴解力，読解力，作文力，口頭発表力）の内容説明と言語構造能力の細かい記述がある．テストが高い妥当性を持つためには，テストの対象を明確にすることが重要である．すべての技能を対象とする ТРКИ は，その意味ではそれぞれの下位テストでかなり高い妥当性を持つと言えよう．

2001 年に，『Стандарт』を具体化するシラバスの役割を果たすものとして『Образовательная программа по русскому языку как иностранному. Элементарный уровень. Базовый уровень. Первый сертификационный уровень』が発表された．2001 年には第 1 レベルの『Программа по русскому языку как иностранному. I сертификационный уровень. Общее владение』も出版されているが，「プログラムは包括的な CEFR 能力記述文のパラメータ・カテゴリーをロシア語学習に関して具体化したものである．そこでは ... 能力尺度に関する抽象的な記述のみならず，活動領域・テーマ・課題・場面ごとの具体的なコミュニケーション活動内容，さらにそれらのコミュニケーション活動に必要な言語表現形式，言語構造知識の全体が記述されている」（林田 2010: 5）とする林田の第 1 レベル『Программа』に関する説明は初級レベルにも当てはまると思う．

テスト本体については 1999 年に『Типовые тесты по русскому языку как иностранному. Элементарный уровень. Общее владение』（以下，99 年版）が出版されたが，その後，再出版されることはなかった．実際に実施されているテストは，「 типовые тесты = стандартизированные тесты」と同じ構造を持っている「вариант」である．ところで，理論的にはテストの問題はできるだけ頻繁に改訂されることが望ましく，利用されたテストは公開され，学習に使われるべきである．しかし残念なことに，現状では新しく作られた問題がデータベースに蓄積されるにもかかわらず，使用済みテストが公開されることは非常にまれである．その後，2004 年に教育省の管轄で，別の著者グループで作成された『Типовые тесты по русскому языку как иностранному. Элементарный уровень. Общее владение. Новая версия』（以下，04 年版）が出版されている．この「新バージョン」は数回，再版されている．

「新バージョン」は以前のものに比べ項目の数と形式に違いがあり、下位テストの配列も変わっているが、99年版と04年版にどのような違いがあり、それが何らかの根拠に基づくものなのかどうかを明らかにすることは、ロシア国外のロシア語教員や学習者にとって重要な問題となる。特に ТРКИ 受験を準備する教員・学習者にとっては、教材選択（公開テスト等）の基準をどこに置くべきか、その基準がこの99年版と04年版のテストを比較・検討することで明らかになると考える。

2つの版に違いがあり、04年版が「新バージョン」であるならば、その特徴がどこにあり、どのような課題を解決するために作られたのかについて説明がなければならない。ところが、04年版には99年版にあった、教員と試験官のために不可欠な方法論的説明と詳細な案内がない。この情報は受験者には必要ないかもしれないが、教員にとっては必須情報である。

多領域にわたるテストの場合、テスト実施における下位テストの配列は大きな問題である。99年版と04年版ではテスト配列が変わっており、99年版は1日目に語彙・文法力、読解力、聴解力、2日目に作文力、口頭発表力の順で行われる。語彙・文法力、読解力、聴解力はコミュニケーション能力における受動的スキルであり、作文力と口頭発表力は産出的なスキルである。99年版の配列は、受験者にとって負担の少ない科目の順に配置するというアプローチをとっているようである。ちなみに、初級レベルの『Стандарт』ではスキルの配列が聴解力、読解力、作文力、口頭発表力、語彙・文法の順である。

ところで、04年版では1日目に語彙・文法力、読解力、作文力、2日目に聴解力、口頭発表力の順になった。このような配列の変更は、テスト構造の変更になるので説明が必要である。しかし、このことについて著者たちは言及しておらず、何の理由で変更がなされたかも説明されていない。

その後の調査で、04年版の配列は ALTE の枠組みを採用している多くのテストの構造を模倣しているものであることが分かった。それらのテストでは受動的スキルと産出的スキルのテストが交代で行われている。いずれの配列が優れているか判断できないが、テストの内部構造を ALTE 枠組みの内部構造と統一化する04年版の試みは注目に値する。

99年版の「受験者へのメッセージ」では、重要な情報であるテストの評価システムについて詳しく述べられている。一方、04年版では、評価に関する数字がまったく見当たらず、合格ラインのパーセンテージすら明らかになっていない。このように、テストの根幹に関わる情報について説明が不十分な点は04年版の大きな欠点と言えるであろう。

## 2. 語彙・文法力テスト

外国語の習得は多面的なプロセスであるため、テストによって測定される対象は非常に複雑な性格を持つ。テストでは、言語活動における様々な知識と技能が試されると同時に、言語活動の基礎となる語彙・文法知識についても測定が行われる。

初級レベルの 99 年版テストの作成者の一人である Андрюшина によると，語彙・文法テストの問題は『Программа』の内容の 80-85%を含んでいるとされるが（Андрюшина 1998: 27），量的に妥当なのかどうかという問題がある．テストは受験者の言語レベルを正確に測るものでなければならない一方，簡便なものである必要もある．

99 年版の「語彙・文法力」テストは以下の 5 グループから 100 問が出題されている．テスト全体の配点は 100 点である．グループ 1 で語彙がテストされ，グループ 2-5 で文法がテストされる．

1. 語彙の与えられた文脈での意味の理解と用法（問 1-15）
2. 名詞，人称代名詞，形容詞の性，数，格形（問 16-25）
3. 与えられた文脈での名詞の前置詞－格形の正確な用法（問 26-65）
4. 場所表現と与えられた文脈による基本的な動詞の正確な用法：不定詞の用法，時制形，無接頭辞運動の動詞用法（問 66-90）
5. 単文，複文用法（問 91-100）

テストの設問配列には段階的に難易度を高める原則が適用されている．ところが，受験者にとって設問の難易度に関するデータは今でも発表されていない．

04 年版では設問の数は 70 に減少している．また，6 つの明確なパートに分けられているが，その基準は明らかにされていない．問題内容については語彙問題の数が増えたのに対し，文法問題の数はかなり減少している．試験時間は 99 年版と同じ 50 分なので，04 年版では 1 設問当たりの時間がより多くなっている．

ところで，99 年版ではすべての問題が文脈のまったくない文で構成されていたのに対し，04 年版では大部分の問題が文脈を持つテキストとして出題されている．コミュニケーション・テストにより相応しい内容となったと言えるであろう．

上記の点に関連して問題形式も変化している．99 年版では設問は単純に並べられていたのに対し，04 年版は以下のような多肢選択形式と空所補充の要素を含む穴埋め問題形式になっている．

**Задания 27 – 30. Выберите правильный вариант.**

В центре города находится .... (27) площадь. На площади открылось .... (28) кафе. Там часто бывают .... (29) встречи. Вчера там выступала .... (30) рок-группа.

- |                    |                    |
|--------------------|--------------------|
| 27. (А) старый     | 29. (А) интересный |
| (Б) старая         | (Б) интересная     |
| (В) старое         | (В) интересное     |
| (Г) старые         | (Г) интересные     |
| 28. (А) молодёжный | 30. (А) известный  |

(Б) молодёжная

(Б) известная

(В) молодёжное

(В) известное

(Г) молодёжные

(Г) известные

文脈のあるテキストによって設題するという点はテスト構成にとっては重要である。筆者の所属機関で練習の目的でこのテストを受けた学習者からは、04年版のテストはより面白く、魅力的になったという感想が聞かれた。

ただし、04年版のテストには次のような問題点がある。まず、語彙の設問で語彙ミニマム（Андрюшина и др. 2000）に含まれない単語が出題されている（問 19）。また、文法設問では初級レベルに入っていない文法形式や基礎レベルに属するフレーズ（たとえば отдавать время）が含まれている。その一方で、初級レベルの試験項目として必要な文法形式で抜けているものもある。たとえば中性名詞複数形、女性名詞生格、活動体男性名詞の対格、時の表現等である。また、同じ文法形式が複数回出題されるといった問題もある。

### 3. 読解力テスト

99年版「読解力」テストは2パート（30問）で構成され、辞書の利用は可能である。テスト時間は45分、1問につき4点の配点、試験全体で120点配点となる。

（問 1-10）は10単語前後の短い単文の内容について、整合性のある続きの文の選択。マッチングアイテム方式の設問（2問にたいして4つの選択肢から解答）が出される。

（問 11-30）は450単語の長文の概要、およびポイントとなる情報の整理。  
パート2では簡略化された文学作品テキストが出題され、設問は多肢選択（選択肢3）問題である。語数は『Стандарт』で定められたもの（99年版では200-250単語、04年版では250-300単語）をかなり上回っている。

04年版は試験時間が45分から50分になり、5つのパートから構成されている。

（問 1-4）は短い単文の内容について、整合性のある続きの文の選択。

（問 5-8）は20単語以下で書かれた広告の内容の理解。

（問 9-12）は30-40単語で書かれた新聞・雑誌記事の抜粋について、文章のテーマと概要について内容に合致する文の選択。

（問 13-20）は130単語の文章について、テーマや概要、重要な詳細情報の理解。

（問 21-30）は、300単語からなる長文の概要及びポイントとなる情報の理解。

文章理解は、その文章が書かれた目的を理解することがポイントとなる。99年版（問 1-10）では、ロシア語で書かれた情報から該当するシチュエーションを理解し、現実生活の中で何らかの言語以外の行動を遂行するような設問が設定される。たとえば、

- Вы хотите вместе с другом поужинать. Вы пойдёте ...

(А) в кинотеатр «Москва»

(Б) в магазин «Москва»

(В) в ресторан «Москва»

(Г) в музей истории Москвы

このようなタスクはオーセンティックな性格を持ち，コミュニケーション・テストに相応しい．ところでテスト中，大きな割合を占める（問 11－30）の長文はオーセンティックな文学作品ではあっても，「内容にあった選択肢を選びなさい」というようなタスクを持つ伝統的な形のテストである．現実の生活で何の目的もなく何かの文章を読んで，後でその内容について誰かから尋ねられるということは，ほとんどないのである．

04 年版では，99 版に比べて，パート 1 が同じ形を持つ．また，量的にはより短い 2 つの文学的なテキスト（パート 4 と 5）が含まれているが，その他にロシア語の情報誌や新聞でよく見かけるタイプの，オーセンティシティーの高いテキストのパート 2 と 3 も加わった．実生活のリーディングでは，読み手は自分に必要な情報を求めて読むわけだが，そういう意味では 04 年版はよりオーセンティシティーが高いテストとなったと言えるであろう．しかし，まだ完全な意味でのコミュニケーションテストの性格を持つには至っていない．さらに，04 年版の語彙レベルはより高いものになっており，ボリュームもかなり増えている．

#### 4. 聴解力テスト

このテストでは，現実の様々な短いモノログと対話形式の概要や詳細情報を理解する「聴く能力」が測定される．

99 年版のテストは 3 パート（20 問）を含む．実施時間は 25 分である．辞書の利用は認められておらず，すべての設問は 2 回再生される．3 つの選択肢より解答を選ぶ形式となっており，試験全体の配点は 100 点である．

（問 1－5）モノログ形式の 8-10 単語の文の内容理解．

（問 6－8）短い 5-6 文のダイアログのテーマ理解．

（問 9－16）60 単語前後のダイアログにおける談話意図の理解．

（問 17－20）13 文（110 単語）からなるモノログのテキストの主な内容と補足的情報の理解．概要は，観光地であるウラジミル市見学の案内文である．

パート 1 ではそれぞれの課題がテーマ的，ジャンルの共通性を持っておらず，コミュニケーション意図も不明確なものとなっている．

パート 2 の問 6－8 では，受験者は会話がどこで行われるか（路上で，バスで，市街地で）を答えなければならないが，実際的なコミュニケーション価値は低い．聞き取りにおける主な課題は，会話がどこで行われるかを判断することではなく，会話の内容を理解し

て自分に必要な情報（バスがどこへ行くかなど）を摘出することであるはずだ。

パート 2 の問 9-16 は受験者とは関係のないストーリーを聞き取る課題であり、コミュニケーション的な価値も低い。

パート 3 はガイドから観光客に対して与えられた情報を理解する課題であるが、「聴解力」テストでの唯一、コミュニケーション的な価値を持つ課題となっている。

04 年版は、実施時間が 25 分から 30 分に増えている。

（問 1-4）モノログ形式の 8-10 単語の文の内容理解。

（問 5-7）短い 5-6 文のダイアログのテーマ理解。

（問 8-11）10 文からなるダイアログのポイント理解。

（問 12-18）135 単語からなるダイアログの必要情報の理解とメモ作成。電話での会話。ロシア語講座についての問い合わせの場面。日付、時間、授業のスケジュール、場所の情報の理解。

（問 19-25）175 単語からなるモノログの必要情報の理解とそのメモ作成。ガイドから観光客に与えられた情報。

基礎レベルにおける 2 つのバージョンの「聴解力」テスト、パート 3 とパート 4 の比較に関する林田の結論は初級レベルにも当てはまる。「兩年度で大きく異なる点は 05 年版で新しくタスク方式の問題が 2 問加えられたことである。日常生活において、言語技能の各能力は実際には単独で成立しているのではなく、多くの場合に総合的コミュニケーション能力として各技能を複合的に使用する力が求められる。今回、聴解力のみならず、書きことばでそれを再現する力を合わせてタスク方式問題として出題している意図も、そのようなより現実的な日常生活における活動力としてのコミュニケーション能力を受験者に求めていることの証であると思われる」（林田 2010: 19）。このような課題は初めて初級レベルのテストに導入されている。

99 年版に比べて、04 年版の受験者への指示はより曖昧になっている。99 年版の「Прослушайте высказывания, выберите фразу-синоним」という記述にに対して、04 年版では「Прослушайте сообщения, выберите из трёх предложений (А, Б, В) то, которое достаточно точно передаёт смысл прослушанного」になった。「достаточно точно」は解釈の余地の残る表現であり、テスト課題の表現としては相応しくない。さらに、単語 достаточно は初級レベルの語彙ミニマムに入っていないので課題の目的が正しく伝わらない可能性がある。

それ以外にも、難易度と未習語彙の割合がより高くなっていることが指摘できる。たとえば、99 年版の最初の設問は分かりやすい「Вы говорите по-русски?」であったが、04 年版では「В субботу вечером в общежитии будет встреча с режиссёром фильма «Анна Каренина»」である。この設問では、語彙ミニマムに入っていない単語「режиссёр」とロシア語の初級レベルの学習者がすべて知っているとは限らないトルストイの小説

「Анна Каренина」のタイトルが入る。さらに、「общезитие」という場所は、語彙ミニマムに入っているが一般の学習者にとっては使用機会の少ない単語である。テストの冒頭問題で、いきなりこのような難易度の高い設問が出された場合、受験者は不安に陥り、その心理状態がテスト全体に影響を与える可能性も否定できない。

04年版の内容は確かにコミュニケーション・テストの目的により良くマッチする。しかし、聞き取り設問の量が260単語から470単語に増え、聴解だけでなく記憶力も必要になった。また、語彙レベルも初級レベルよりは基礎レベルに近いものであり、特別な練習なしで受験は難しくなっている。

## 5. 作文力テスト

「作文力」テストは、ある情報を書き留める能力と与えられたテーマに対して筆記発話の能力を測定するテストである。課題ではテキスト再現力、すなわち、受験者がテキストをそのまま写すのではなく、自分なりに情報を変形することが求められる。設問はフリースポンスアイテム形式の課題である。辞書の使用は可能である。

99年版はテスト時間が50分、タスク型の2つの課題からなる。

設問1は、185単語からなるテキストの主な内容と与えられた課題に沿ってまとめる。ここで使われているテキストは簡略化された文学作品である。この課題はコミュニケーション性格を持たない。

設問2は、与えられたテーマについて、設定された質問を手がかりに5文以上の文書を作る。

04年版ではテスト時間が40分に減る。タスク型の1つの課題で与えられたテーマについて、設定された質問を手がかりに15文以上の文書を作るという設問である。

99年版では、与えられた文書の要約が主なタスクであったが、04年版では手がかりとなる質問こそ与えられているが、ほぼ自律的な活動としての文書作成能力が求められている。課題で読解力が求められることがなくなり、その意味では04年版テストの妥当性は上がったと言えるであろう。ところで、04年版は採点に関する情報を公開していない。これはテストの利用を妨げる大きな欠点となっている。

99年版の「作文力」テストの採点基準については、以下のような「評価用チェックリスト」が提示されている。

### 設問1

1	課題に対する適切さ	不適切な解答 -40
2	文書の情報の完全な展開	主な情報の欠落について 各-5
3	情報の論理的展開と整合性	論理的展開と整合性の欠如について 各-2
4	コミュニケーションに障害のある語彙・文法・文体上の誤り	各-2

5	コミュニケーションに障害にならない語彙・文法・文体上の誤り	各-0.5
6	文書の完全さと十分な展開	+3
7	言語材料の使用の独自性	+3

#### 設問 2

1	課題に対する適切さ	不適切な解答 -40
2	文書量	質問に対する答えの欠如について 各-1
3	文の論理的展開と整合性	論理的展開と整合性の欠如について 各-2
4	コミュニケーションに障害のある語彙・文法・文体上の誤り	各-2
5	コミュニケーションに障害にならない語彙・文法・文体上の誤り	各-0.5
6	文書の完全さと十分な展開	+3
7	言語材料の使用の独自性	+3

「評価用チェックリスト」の内容を見ると、課題に適切な対応、再現した情報の正確さと情報の量、発話の論理性と整合性などの能力が評価対象となっている。

コミュニケーションテストでは語用能力が特に重要な意義を持つ。学習者は、「作文力」テストで与えられたコミュニケーション課題に適切に対応しなければ、発話が採点されず、0点となる。

言語構造能力は、「作文力」テストでは「コミュニケーションに障害のある語彙・文法・文体上の誤り」の場合の減点 (-2) と「コミュニケーションに障害にならない語彙・文法・文体上の誤り」の減点 (-0.5) の形で測定される。

談話的能力は、産出的な言語能力を測定するテストの場合に、重要な評価対象となる。「作文力」テストでは、整合性が欠如している場合、2点が減点される。

創造的な側面を持つスキルが測定される方略的能力はテストで高く評価される。「作文力」テストでは3点の加算となる。

「評価用チェックリスト」の存在によって、コミュニケーション活動をテストする場合においても評価対象は明確に設定され、これまでにみられた妥当性を下げるような要素、主観的な印象点などの入る余地はなくなっている。

## 6. 口頭発表力

「口頭発表力」テストの目的は対話とモノローグの能力の測定である。このテストでは試験官が受験者の対話の相手となり、面接方式でテストが行われる。

99年版の『Стандарт』では、「口頭発表力」テスト合格に必要な語用能力として以下のような点が挙げられている。

- ・ モノローグ

— 所与のテーマと質問を手がかりにモノログ形式の発話。発話量は最低 7 文。テキスト量：150－180 単語。未習語彙：なし。

— 与えられたテキストについて内容要約を行い、自分の意見を展開する。

テキストのタイプ：初歩レベルに相当する語彙・文法によって特別に作成されたテキスト。

・ ダイアログ

— 与えられた状況に応じて相手の発話を理解する。

— ダイアログに参加して適切な応答を行う。

— 与えられた状況に応じて適切なダイアログを導入する。

受験者の発話は現代標準ロシア語の規範に則ったものでなければならず、そこには待遇表現など、社会的慣習も含まれる。

99 年版と 01 年版の『Стандарт』によれば、「口頭発表力」テストでのモノログの課題発話量は変わらず 7 文となっている。一方、受験者が理解しなければならないテキストのボリュームは 150-180 単語から 150-200 単語に増えており、1%の未習語彙のノルマも導入されている。ちなみに、未習語彙は他のテストにも含まれている。

教科書で習っている語彙が少ない上に、未習語彙を出さないとすると、本当の限られた単語しか使えなくなり、テキストのオーセンシティーは大きく下がってしまうことになる。現実の生活では、外国語の使用において未習語彙がないという状況はあまり想定できないであろう。このため、コミュニケーション・テストでは、ある程度の比率の未習語彙は容認される傾向にある（根岸 2007）。

言うまでもなく「口頭発表力」テストで評価の対象となるのはスピーキング能力であるが、その能力を直接、測定することは重要である。テストは間接的になればなるほど妥当性は下がるが、ТРКИ では、実際の会話の形でテスト・評価が行われることで、スピーキング能力評価についての高い妥当性を保つことできている。

初級レベルの 99 年版では試験官自身がダイアログの相手になり、また、受験者のモノログを促す発話を行う。テストの時間は 45 分間である。

設問 1（問 1－5）では、試験官の日常生活に関する質問に対して受験者が回答する。すなわち、与えられた状況に応じて相手の発話を理解し、ダイアログに参加して適切な応答を行う能力のテストである。すべての回答はフリーレスポンスの形式である。発話時間は 4 分間である。

設問 2（問 6－10）では、試験官によって与えられた状況に応じて受験者はダイアログを導入する。発話時間は 5 分間である。

以上の設問は準備なしでの発話能力を測るものであり、日常生活の場面で使用される表現力が評価される。

設問 3（問 11）では、受験者は与えられたテキスト（テレビ番組表、180 単語まで）に

ついて内容要約を行い、モノローグの形で自分の意見を述べる。準備時間は 15 分間で、発話時間は 5 分間である。読解の際に辞書の使用が可能である。

この課題では、自分の好きな番組についてそれを選んだ理由を伝えることが課題となっており、定型表現ではなく、より自由度の高い、内容的にも幅の広い表現力が求められる。

設問 4（問 12）では、受験者は所与のテーマと 3 つの質問を手がかりに 7 文までのモノローグ形式の発話を行う。準備時間は 9 分間、発話時間は 6 分間である。辞書の使用が可能である。

この設問では、受験者は家族が好むテレビ番組とその理由、さらに、受験者が学校時代にどんな番組が好きであったかについて説明しなければならない。このテストは、実生活を反映した課題であり、完全に自由スタイルの発話を要求するテストとなっている。タスク遂行の目的が明確であり、コミュニケーション性を持つ課題と言える。

ところで、「口頭発表力」テストの総実施時間は 45 分間となっているが、様々な言語能力を測る総合テストのスピーキング下位テストとしては、異例に長い時間が設定されている。長時間のテストで様々な角度から口頭発表力が測られ、テストとしては高い信頼性を持つことになるが、妥当性の観点からみれば問題がないとは言えないだろう。

99 年版の設問 3 の難点はモノローグの発話にある。受験者には辞書使用可能な 10 分間の準備時間が考えられている。発話する前にテキストの内容要約をしなければならないので、口頭発表力だけでなく、読解力と記憶力も必要とされる。すなわち、測定すべき対象とする能力以外の能力が評価に関わってくることになり、これは、この設問については「口頭発表力」テスト全体の妥当性を下げることにつながりかねない。

05 年版における基礎レベルの「口頭発表力」テストについて、林田は次のように指摘する。99 年版のテストに比べて、「口頭発表力テストでは第 3 問の読解用テキストが量・内容ともに難易度が高くなっている点を除いては、さほど大きな変化点は見られない」（林田 2010：20）。すなわち、基礎レベルで「口頭発表力」テストの半分近い時間を占める、辞書の利用を認める難易度のかなり高い設問 3 のレベルがより上がっているのである。単語数だけで見ると 400 単語から 600 単語まで増えている。

さて 04 年版、初級レベル「口頭発表力」テストであるが、99 年版に比べて大きな変更が加えられている。設問 1 と設問 2 はそのまま残っているが、上で問題となった設問 3 は、逆に、テストから姿を消した。その一方で 99 年版の設問 4 に該当する設問 3 の量が増えている。所与のテーマと 10 の質問を手がかりに 10-12 文までのモノローグ形式の発話を行うという課題である。また、設問 3 に対する 3 つのバリエーションも提案されている。99 年版の設問 3 に当たる課題の削除によって、04 年版テストの妥当性は上がったと言えるだろう。さらに、テストの時間も 45 分から 25 分に短縮したので、テストはより簡便になった。しかし、「作文力」テストと同様に、04 年版の「口頭発表力」テストにも採点規準の説明がなく、問題を残している。

99 年版の初級レベル「口頭発表力」テストの「評価用チェックリスト」では、以下の能力や手段がチェックされる。

表 1. 設問 1・2－20 点，各問－5 点

1	コミュニケーション課題に適切に対応しているか	課題が達成されていない場合に採点しない
2	待遇表現の誤り	各-0.5
3	コミュニケーションに障害のある語彙・文法・文体上の誤り	各-1
4	コミュニケーションに障害にならない語彙・文法・文体上の誤り	各-0.5
5	発音・イントネーションの重大な誤り	各設問単位で -2
6	発話の完結性と十分な展開	+1
7	発音・イントネーションの正確さ	+1
8	テーマ展開と言語材料使用の独自性	+1

表 2. 設問 3－40 点

1	再現したテキスト情報の適切さ	課題が達成されていない場合に採点しない
2	再現したテキスト情報の正確さ	内容の逸脱について 各-5
3	情報の論理的展開と整合性	各-2
4	コミュニケーションに障害のある語彙・文法・文体上の誤り	各-2
5	コミュニケーションの障害にならない語彙・文法・文体上の誤り	各-0.5
6	発音・イントネーションの重大な誤り	設問全体で -2
7	発話の完結性と十分な展開	各+5
8	発音・イントネーションの正確さ	各+1

表 3. 設問 4－50 点

1	コミュニケーション課題に適切に対応しているか	課題が 50%以上に達成されていない場合に-30 点
2	与えられたテーマに対する適切さ	テーマからの逸脱度に応じて -10~-30
3	発話量	規定量以下の場合 -10
4	情報の論理的展開と整合性	各 -1
5	コミュニケーションに障害のある語彙・文法・文体上の誤り	各 -2
6	コミュニケーションに障害にならない語彙・文法・文体上の誤り	各-0.5
7	発音・イントネーションの重大な誤り	設問全体で -2
8	発話の完結性と十分な展開	+5
9	テーマ展開と言語材料使用の独自性	+5
10	発音・イントネーションの正確さ	+1

「口頭発表力」テストでも「作文力」テストと同様に、学習者は与えられたコミュニケ

ーション課題に適切に対応しなければ、発話が採点されず 0 点になる。言語構造能力と談話能力の採点についてもさほど変わらない。

注目されるのは、方略的能力が、「作文力」テストより高く評価されることである。「口頭発表力」テストの設問 4 では、テーマの展開と言語材料の独自性は最高の点数の 5 点が加点される。

また、社会言語能力についても評価対象になっており、「待遇表現の誤り」が 0.5 減点になる。

採点者の信頼性を高めるには、まず、明確な基準を持つことが重要である。スピーキング能力テストの対象リスト、その対象のレベル分け、採点の基準などを含む試験官向けのマニュアルの作成は急務である。また、この採点基準を運用するためのトレーニングも重要である。ロシア国外の試験官や教員にとって、複雑な基準による採点能力の維持は、定期的な練習なしではきわめて難しいものになるであろう。

## 7. テストの問題点

テストの問題点として、ドイツの Хебуш (2005) は、ドイツで ТРКИ のテスト実施の際に、ТРКИ と CEFR との一致に関して次のような疑問が出たと指摘している。

「Успешное решение заданий теста Элементарного уровня ТРКИ с компетенциями на уровне А1 здешнего понимания (т.е. по CEFR – Т.А.) вряд ли можно себе представить」(Хебуш 2005: 69)。ドイツのハール市のテストセンターでは、ТРКИ と CEFR との比較作業が行われた。その結果、ТРКИ の初級レベルのテストは CEFR の A2 レベルに相当するという結論が出されている。そのような意見を基に、以下のように ТРКИ と ALTE レベルを一致させようというのが提案が出された。

初級レベル – A2 (Waystage)

基礎レベル – B1 (Threshold)

第 1 レベル – B2 (Wantage)

第 2 レベル – C1 (Effective Proficiency)

第 3 レベル – C2 (Mastery)

すなわち、ТРКИ の初級レベルのテストは、実際にテストの作成者が公表したものより高度で、より難しいものであるという疑問である。また、本論文の著者の私的な意見であるかもしれないが、ТРКИ は世界で最も長い言語テストの一つであるという印象はぬぐえない。さらに、99 年版と比べて 04 年版における語彙レベルは高くなっており、語彙量かなり増え、難易度が上がっている。現在のところ、ТРКИ はロシアの大学に入学して勉強する受験者だけを想定して策定されているような印象を与えている。

このような事情の原因は『Стандарт』の定義にあると思う。本論文のはじめに触れたように、『Стандарт』の定義は「当該言語の**教育**や**普及**に関する一定の目的や理念」を含

む。しかし、引用した ТРКИ の策定の動機や目的の中に**教育改善**の記述があるが、ロシア語の**普及**に関する記述がない。このような理論的な立場は重大な結果をもたらす。すなわち、ロシアの教育科学省は ТРКИ の中で高い方レベルに注意を集中している。日本だけではなく、ロシア国外全般的にロシア語教育で学習者の圧倒的な数を出す一般学校と大学での非専攻課程で適用の一番高い可能性を持つ ТРКИ 初級レベルの立場は法律的に確立されていない。教育科学省の管轄で初級レベルのバージョンが別に出版されているにもかかわらず、初級レベルの『Стандарт』のタイトルに、他の 5 レベルの『Стандарт』と違って、「Проект」と書いている。また、初級レベルの『Стандарт』の序文に、五つのレベルが明記され、一番下に配置されているのは「**базовый уровень (включающий элементарный уровень)**」(Владимирова Т.Е. и др. 1999: 4-5) である。ある意味では、初級レベルは独立したテストのステータスをもっていない。この状態は今でも変わっていない。2009 年のロシア連邦教育科学大臣の命令「Об утверждении федеральных государственных требований по русскому языку как иностранному языку」では、五つのレベルに関して記述しているが、初級レベルについて全く触れていない。

ロシア語能力をできるだけ徹底的に測定するという、テスト作成者の狙いは理解できる。しかし、重要な意思決定（入学合否判定、クラス分けなど）に関わらない初級レベルの試験は、初級（入門）レベルの教育での、動機付けの役割を果たすべきものであり、ロシア語の勉強に興味を起こさせるきっかけとして考えるべきかもしれない。テストがあまりに難しいことで多くの受験者を見込めない事態にもなる。現在の初級（入門）レベルより下のレベルの、より簡単なテストを導入すべきというロシア国外の教育者の提案[たとえば「**пре А** レベル」(堤 2011: 6)]については、現在のところロシア教育科学省は認めていない。

また、ТРКИ の内部の問題がないといえない。上に申し上げたドイツで行われた調査によって、ТРКИ の『Стандарт』では必要とされるコミュニケーション活動、場面とテーマが記載されているが、CEFR との比較のためにはこれらの定義では不十分である。というのも、場面がコミュニケーション活動とは無関係に設定されており、一方、コミュニケーション活動については適切な言語手段なしで記述が行われているからである。『Стандарт』の記述の大部分を占めるのは、言語構造能力、すなわち文法と語彙の能力であり、これでは CEFR との比較作業はとても難しいものになる。

テストの改善には様々な方向性があり、研究者たちによって改善の重点もそれぞれ異なる。たとえば、妥当性の向上である。ТРКИ の設計に積極的に参加した Андрюшина (2005) は既存のテストを以下のように評価している。「К их положительным сторонам относится максимальная объективность, технологичность и экономичность. Использование тестовой формы контроля позволяет значительно активизировать учебный процесс. Однако все эти факторы вряд ли могут «работать» без

должного уровня валидности тестов, без данных статистической обработки и, следовательно, без банка стандартизированных заданий. Перечисленные недостатки, к сожалению, присущи тестам, используемым в Российской системе тестирования» (Андрюшина 2005: 8). Андрюшина は、実施されたテストの結果データが蓄積・分析されていないにもかかわらず、「標準課題」という概念がテストの性格付けによく使われていると指摘している。

また、この問題の解決に関しては、Андрюшина は次のように述べている。「Для устранения данного недостатка в центре тестирования МГУ им. М.В. Ломоносова (ЦМО) была проведена статистическая обработка результатов тестирования нескольких вариантов субтестов по лексике-грамматике, чтению, аудированию Элементарного, Базового и Первого уровней. Анализ данных, полученных в результате обработки, показал, что по крайней мере 1/3 тестовых заданий (в некоторых субтестах и больше) следует изменить» (Андрюшина 2005: 9). 統計的なデータを使って改良されたテストの利用は、間違いなくテスト改善のために新しい資料を提供することとなる。このようなテストが実施される場合に初めて、ТРКИ では標準テストが使われていると言うことができるであろう。

標準テストは、精密な実験や検査を受け、妥当性などテストの質に関する指標に合致しているかどうかを検証される。標準テストの作成、実施プロセスでは数学的・統計的データが使用されなければならない。ところで、Андрюшина は ТРКИ の主な問題点として不十分な妥当性、すなわち言語能力の測定に関して十分な正確性を持たないという点を挙げているが、テストのオーセンティシティの問題には触れていない。

一方、モスクワ国立大学の Норе́йко (2005) は、テスト改良の問題をそのオーセンティシティの立場から検討している。ТРКИ の問題がコミュニケーションタスクでなければならないという原則は、すべての下位テストに適用することができる。文法・語彙のスキルでさえコミュニケーションタスクであるかどうかという点でチェックすることができる。

また、現存の ТРКИ はステータス、年齢、民族によって受験者の区別を行っていない。テスト実施の経験から Норе́йко は、ロシア語の学習者を 4 つのカテゴリーに分けている。すなわち、学校の生徒、ロシアの大学の学生、ロシアで仕事をする外国人、及びロシア語環境がない場所でロシア語を勉強する人々である。

この事実は、教育とテスト・プロセスにおいて知識評価の正確性を高めるためには、テスト問題の標準化だけではなく、様々な学習者の需要を満たす教材とテスト課題を作成する必要があるということを意味している。ロシア語圏以外のロシア語教員は、それぞれの国の文化・メンタリティーを考慮に入れた民族志向テストバージョン作成の必要性を感じている。

ТРКИ はまだ理想に近いものではないが、研究は様々な方面で進んでおり、試験官の経

験がもたらすノウハウは、将来の改善のためには大きな貢献になると思う。重要なことは改良の方向への正しい選択である。

## 8. おわりに

全体として見ると、ТРКИ の初級レベルのテストは完全にコミュニケーションテストではないが、コミュニケーション言語運用能力と言語構造能力の内容を十分に測定している。テストは、授業活動で学習するすべての技能を測定するのでかなり高い妥当性を持っていると言える。テスト作成者は、言語の基礎である文法と語彙内容をチェックするためにコミュニケーションではない、伝統的な多肢選択肢の文法・語彙力の下位テストを導入しているが、04 年版では「文法・語彙力」テストも、よりコミュニケーションな課題となるような工夫がなされている。

「読解力」テストの 04 年版は、まだ完全にコミュニケーションテストにはなっていないが、よりオーセンティシティーが高いテストとなった。

「聴解力」テストの 04 年版の内容は明らかにコミュニケーション・テストの目的により良くマッチしている。

「作文力」テストの 04 年版は、読解力の能力が関係しなくなったのでテストの妥当性が上がった。

「口頭発表力」テストは面談形式の会話の形で実施され、高い妥当性を持つと言える。採点は、「分析的採点」の方式で行われるので信頼性が高い。テストの管理者は、採点者に対する試験官間の信頼性を保つために、大きな注意を払っている。99 年版テストにおける、妥当性の観点からみた難点は 04 年版では改善されている。採点において、評価対象能力以外のものが測定されるといった点はなくなり、テスト時間も短縮され、より簡便になった。

全体的には、04 年版はコミュニケーション・テストにより相応しいテストであると結論することができるであろう。

また、04 年版のテストの説明と「評価用チェックリスト」も含まれておらず、難易度の点も含めて、ロシア国外での普及には大きな問題が残るのである。

## 参考文献

### 和文

- 白山 利信. 2007. 「ロシア語検定試験」. 『日本私学教育研究所調査資料』第 243 号, pp.93-96.
- 尾崎 茂. 2008. 『言語テスト学入門——テスト作成の基本理念と研究法——』(大学教育出版).
- オルダーソン, チャールズ, クラッファム・キャロライン, ウォール・ダイアン. 2010. 『言語テストの作成と評価 — 新しい外国語教育のため』(春風社).
- 北岡 千夏. 2003. 「日本の大学におけるロシア語能力検定試験実施の試み」. 『外国語教育フォーラム』第 2 号 (関西大学外国語教育研究機構), pp.107-120.
- 小林 潔. 2006. 「「外国語としてのロシア語」が目指すもの——「機能・コミュニケーション文法」と「文学テキストの重視」——」. 『外国語教育論集』第 28 号 (筑波大学外国語センター), pp.15-24.
- 小林 潔. 2007. 「ロシア語教育とヨーロッパ共通参照枠」. 中澤英彦・小林潔編『ロシア語学と言語教育』(東京外国語大学), pp.83-119.
- 静 哲人, 竹内 理, 吉澤 清美 共編著. 2002. 『外国語教育リサーチとテストニングの基礎概念』(関西大学出版部).
- 堤 正典. 2011. 「非専攻課程ロシア語教育と習得基準をめぐって」. 堤正典・小林潔編『ロシア語学と言語教育Ⅲ』(神奈川大学ユーラシア研究センター), pp. 5-10.
- 根岸 雅史. 2007. 『コミュニケーション・テストニングへの挑戦』(三省堂).
- マクナマラ, テイム. 2004. 『言語テストニング概論』(スリーエーネットワーク).
- 武藤 研介. 2007. 「日本の大学におけるロシア語教育の現状に関する調査研究 (Ⅶ) ——ロシア語能力検定試験の導入の問題点——」. 『京都外国語大学研究論叢』第 70 号, pp.85-100.
- 林田 理恵. 2010. 林田理恵研究代表者『到達度評価制度構築のための「国際基準」に準拠したロシア語総合試験開発』(大阪大学大学院言語文化研究科).
- バックマン L.F., パーマー A.S. 2000. 『＜実践＞言語テスト作成法』(大修館書店).
- 平高 史也. 2006. 「言語政策としての日本語教育スタンダード」. 『日本語学』(明治書院) 第 25 巻 第 11 号, pp.6-17.
- ヒューズ, アーサー. 2003. 『英語のテストはこう作る』(研究社.)

### 露文

- Андрюшина Н.П. 1998. «Разработка лексико-грамматических тестов по РКИ для начального этапа обучения» *Вестник ЦМО МГУ*, №1.
- Андрюшина Н.П. 2005. «Создание новых версий тестов по русскому языку как

- иностранному» II Всероссийская научно-практическая конференция. Тестовые формы контроля по русскому языку как иностранному (РКИ). Доклады и сообщения. ЦМО МГУ им. М. В. Ломоносова 12-13 апреля 2005 года. М.
- Андрюшина Н.П. и др. 1999. Типовые тесты по русскому языку как иностранному. Элементарный уровень. Общее владение. М. – СПб.
- Андрюшина Н.П. и др. 2000. Лексический минимум по русскому языку как иностранному. Элементарный уровень. Общее владение. М. – СПб.
- Андрюшина Н.П. и др. 2001. Программа по русскому языку как иностранному. I сертификационный уровень. Общее владение. М. - СПб.
- Антонова В.Е. и др. 2004. Типовые тесты по русскому языку как иностранному. Элементарный уровень. Общее владение. Новая версия М. – СПб.
- Афанасьева И.Н. и др. «К проблеме аутентичности материалов в субтестах «Аудирование» Элементарного уровня ТРКИ и Start-Deutsch 1» II Всероссийская научно-практическая конференция. Тестовые формы контроля по русскому языку как иностранному (РКИ). Доклады и сообщения. ЦМО МГУ им. М.В.Ломоносова 12-13 апреля 2005 года. М.
- Балыхина Т.М. 2006. Словарь терминов и понятий тестологии, М.
- Владимирова Т.Е. 2001. «Учет психологических особенностей иностранных учащихся при разработке теста по русскому языку (элементарный уровень)» Вестник ЦМО МГУ, №2.
- Владимирова Т.Е. и др. 1999. Государственный образовательный стандарт по русскому языку как иностранному. Элементарный уровень. Проект. М. – СПб.
- Владимирова Т.Е. и др. 2001. Государственный стандарт по русскому языку как иностранному. Элементарный уровень. Проект. Издание второе, исправленное и дополненное. М. – СПб.
- Норейко Л.Н. 2005. «Пути совершенствования форм контроля при обучении РКИ» II Всероссийская научно-практическая конференция. Тестовые формы контроля по русскому языку как иностранному (РКИ). Доклады и сообщения. ЦМО МГУ им. М.В. Ломоносова 12-13 апреля 2005 года. М.
- Образовательная программа по русскому языку как иностранному. Элементарный уровень. Базовый уровень. Первый сертификационный уровень. М., 2001.
- Хебуш С. 2005. «Роль и место ТРКИ в европейской системе тестирования (на примере элементарного уровня)» II Всероссийская научно-практическая конференция. Тестовые формы контроля по русскому языку как иностранному

(РКИ). Доклады и сообщения. ЦМО МГУ им. М.В.Ломоносова 12-13 апреля 2005 года. М.

英文

Davies A., Brown A., Elder C., Hill K., Lumley T., McNamara T. 1999. *Dictionary of language testing*. Volume 7, UCLES/CPU.

Underhill N. 1989. *Testing Spoken Language. A handbook of oral testing techniques*. Cambridge University Press.

## 外国語としてのロシア語検定試験(初級レベル)の概要と問題点

トルストグーゾフ, アレキサンダー

ロシア連邦教育科学省認定「外国語としてのロシア語検定試験 (Тестирование по русскому языку как иностранному : ТРКИ)」は、既に 15 年間実施されている。通常、テストというものはある理念(策定の動機)に基づいて、ある目的のために、さらに具体的な状況に見合った形で作成される。したがって、テストの利点と欠点、有効性は、テストの目的がどの程度達成されたかで判断する必要がある。

6 レベルからなる ТРКИ の初級レベルの根拠として主張されるのは、外国語としてのロシア語教育スタンダードである。スタンダードを教育実施の中核に取り込むのは、評価・テストの活性化を推進するために重要である。「スタンダード」の能力評価基準によって作成された ТРКИ は、ある種のスタンダードとしての機能を果たして、標準テストとなっている。

言語教育における「スタンダード」とは何かについてまだ共通理解があるわけではない。平高史也の定義を借りると「当該言語の教育や普及に関する一定の目的や理念とともに、その言語の教育の環境をデザインするのに必要なある種の枠組みないしは目安を提供するものである」。

ТРКИ の初級レベルのテストは、実際にテストの作成者が公表したものより高度で、より難しいものであるという疑問がある。初級レベルのテストの 99 年版と比べて 04 年版における語彙レベルは高くなっており、語彙量かなり増え、難易度が上がっている。

このような事情の原因は『スタンダード』の定義にあると思う。本論文のはじめに触れたように、『スタンダード』の定義は「当該言語の**教育や普及**に関する一定の目的や理念」を含む。しかし、引用した ТРКИ の策定の動機や目的の中に**教育改善**の記述があるが、ロシア語の**普及**に関する記述がない。このような理論的な立場は重大な結果をもたらす。すなわち、ロシアの教育科学省は ТРКИ の中に高いレベルに注意を集中している。日本だけではなく、ロシア国外全般的にロシア語教育で学習者の圧倒的な数を出す一般学校と大学での非専攻課程で適用の一番高い可能性を持つ ТРКИ 初級レベルの立場は法律的に確立されていない。

全体として見ると、ТРКИ の初級レベルのテストは完全にコミュニケーションテストではないが、コミュニケーション言語運用能力と言語構造能力の内容を十分に測定している。テストは、授業活動で学習するすべての技能を測定するのでかなり高い妥当性を持っていると言える。テスト作成者は、言語の基礎である文法と語彙内容をチェックするためにコミュニケーションではない、伝統的な多肢選択肢の文法・語彙力の下位テストを導入しているが、04 年版では「文法・語彙力」テストも、よりコミュニケーションな課題となるような

工夫がなされている。

「読解力」テストの 04 年版は、まだ完全にコミュニケーションテストにはなっていないが、よりオーセンティシティーが高いテストとなった。

「聴解力」テストの 04 年版の内容は明らかにコミュニケーション・テストの目的により良くマッチしている。

「作文力」テストの 04 年版は、読解力の能力が関係しなくなったのでテストの妥当性が上がった。

「口頭発表力」テストは面談形式の会話の形で実施され、高い妥当性を持つと言える。採点は、「分析的採点」の方式で行われるので信頼性が高い。テストの管理者は、採点者に対する試験官間の信頼性を保つために、大きな注意を払っている。99 年版テストにおける、妥当性の観点からみた難点は 04 年版では改善されている。採点において、評価対象能力以外のものが測定されるといった点はなくなり、テスト時間も短縮され、より簡便になった。

全体的には、04 年版はコミュニケーション・テストにより相応しいテストであると結論することができるであろう。